

野辺西 延長で光星破る

7日決勝 5年連続同一カード

全国高校サッカー県大会

第100回全国高校サッカー選手権県大会は3日、青森市のカクヒログールプアスレチックスタジアムで準決勝2試合を行った。前回王者の青森山田は、初の準決勝進出を果たした弘前中央と対戦。FW小湊の5得点などで22-0と大勝した。

タジヤムでキックオフ。青森山田は25年連続27回目、野辺地西は初の優勝を目指す。
(成田亮、千葉康之)



【八学光星—野辺地西】延長後半1分、野辺地西のFW町屋9がゴール前で押し込み決勝点を挙げる

「成長できる」

野辺西

5バックと守備的な布陣を敷いた八学光星に苦しみ、点を奪えなかった

野辺地西。延長後半1分、シュートパスとドリブルで攻め上がる得意のスタイルがここの場面で生き、勝負を決めた。相手陣内でボールを回しつつ、中盤で攻撃の起点となっていたMF木村が左サイドのDF村上大にパス。村上大は相手守備陣の態勢が整う前にクロスを送り、ニアサイドに走り込んだFW町屋が冷静に流し込んだ。「相手が真ん中を固めてきたので、サイドから揺さぶろうと思った」と木村。決勝を前に苦戦を強いられたが、「こういうタフなゲームはチームを成長させる」と前向きに捉えた。

シュート数は相手の2本に対して17本。好機をつくりながら、得点に結びつけられなかった詰め甘さが目立った。三上監督は「先制点を取れないまま試合が進んだことで選手が焦ってしまい、単調な攻撃が多かった」と反省を口にした。決勝の相手は5年連続で青森山田。過去4年は全て敗れている。木村は「押し込まれる展開になるのは想定内。奪ったボールを大事につなげられるかが鍵。勝機はある」と闘志を燃やした。

(成田亮)

攻守に奮闘、悔いなく
○：徹底したロングボール戦略で、野辺地西をあと一歩のところまで追い詰めた八学光星。ゴール前のピンチにも体を張った守備で守り抜き、会場の観客を沸かせた。攻守に奮闘したMF長内は「みんなが今までやってきたことを出し切れた」と悔いのない表情。野辺地西には3年間で一度も勝てなかったとい、(勝利は)後輩に託したい。敗戦を糧に今まで以上に練習してほしい」とエールを送った。